

衆議院法務委員会

裁判所職員定員法の一部を改正する法律案に対する附帯決議

議決年月日 (回次)	令和2年4月3日 (第201回国会)	提出会派	自民、立国社、公明、維新
		結果	賛成多数（反対－共産）
議案の概要	下級裁判所における事件の適正かつ迅速な処理を図るため、判事の員数を30人増加し、判事補の員数を30人減少するとともに、裁判所の事務を合理化し、及び効率化することに伴い、裁判官以外の裁判所の職員の員数を17人減少しようとするもの		

(令和7年1月調査)

附帯決議	処理状況	処理内容及び今後の予定 (対応困難な場合はその理由)

<p>一 民事訴訟事件の内容の複雑困難化及び専門化について、引き続き、その実情を把握し、必要な対応を行うとともに、訴訟手続の審理期間及び合議率の目標を達成するため、審理期間が長期化している近年の状況を検証し、審理の運用手法、制度の改善等に取り組み、その上で、目標達成に必要な範囲で裁判官の定員管理を行うこと。</p>	<p>一部措置済み（令和2年、令和3年、令和4年、令和5年、令和6年）</p>	<p>これまで、裁判所としては、裁判官や弁護士との意見交換等の機会を捉えて実情把握に努めつつ、争点中心型の審理の実践や多角的な検討が可能となる合議体による審理の充実・活用のための方策等につき裁判官による協議会等において協議を行うとともに、金融・経済、医療、建築、IT等の専門分野について、裁判官を対象とする研究会を実施するなどしてきた。また、裁判所は、第一審の訴訟手続を2年以内のできるだけ短期間に終局させるとともに、当事者である国民のニーズを踏まえ、充実した手続を実施する方策の一環として、合議体による審理の充実・活用を図るよう努力しているところであり、裁判の迅速化に関する法律第8条第1項に定められた裁判の迅速化に係る検証において、審理期間が長期化している状況を不断に検証するとともに、争点整理手続の実情や合議体による審理の実情等を分析・検証するなどし、合理的な期間内に充実した適正な裁判が実現されるように検討を続けている。これまで裁判所としては、裁判官を増員し、裁判官が適切な訴訟指揮権行使して終期を見通した計画的な審理の実践や合議事件の審理の充実強化を図る態勢を整えるとともに、訴訟関係人の理解と協力を得つつ、争点中心型審理の実践に努めるなど、審理期間及び合議率の目標達成のため検討を続けてきたところであり、令和6年度においても、事件動向等を注視し、適正迅速な事件処理に支障を来すことのないよう、必要な人員配置を行った。</p>
<p>二 裁判所職員定員法の改正を行う場合には、引き続き、判事補から判事に任命されることが見込まれる者の概数と判事の欠員見込みの概数を明らかにし、その定員が適正であることを明確にすること。</p>	<p>一部措置済み（令和3年、令和6年）</p>	<p>裁判所としては、判事補から判事に任命されることが見込まれる者の概数及び判事の欠員見込みの概数及びその定員が適正であることについては、委員会質疑を通じて明らかにする予定である。</p>

<p>三 平成二十五年三月二十六日、平成二十八年三月十八日及び平成二十九年三月三十一日の当委員会における各附帯決議等を踏まえ、最高裁判所において、引き続き、判事補の定員の充足に努めるとともに、判事補の定員の在り方について、更なる削減等も含め検討していくこと。</p>	<p>措置済み（令和4年）</p>	<p>裁判所としては、引き続き、裁判官にふさわしい資質・能力を備えた人をできるだけ多く裁判官に採用できるよう努めるとともに、判事補の定員について、本附帯決議の趣旨も踏まえて総合的に検討した結果、令和4年度に判事補40人の減員を行ったところである。</p>
<p>四 現在の法曹養成制度の下で法曹志望者が減少していることを踏まえ、そのことが法曹の質や判事補任官者数に及ぼす影響につき必要な分析を行い、その結果を国会に示すとともに、法曹養成機能の向上、法曹志望者の増加等に向けた取組をより一層進めること。</p>	<p>一部措置済み（令和4年、令和6年）</p>	<p>法曹志望者数の減少、ひいては司法修習生の減少が判事補任官者数に及ぼす影響については、必要な分析を行った上で、委員会質疑を通じて示す予定である。</p>
<p>五 司法制度に対する信頼確保のため、訟務分野において国の指定代理人として活動する裁判官出身の検事の数の縮小に関する政府答弁を遵守し、必要な取組を進めること。</p>		

※ 太枠の中を記入してください。

※ 处理状況の欄には、措置済み、一部措置済み、検討中、未着手の中から、調査時点における状況を選択して記入してください。

措置済み、一部措置済みの場合は、措置をした年も記載してください。

※ 他府省所管事項の場合は、所管府省を速やかにご連絡ください。

衆議院法務委員会

裁判所職員定員法の一部を改正する法律案に対する附帯決議

議決年月日 (回次)	令和3年3月12日 (第204回国会)	提出会派 結果	自民、立民、公明、維新、国民 賛成多数（反対－共産）
議案の概要	裁判所の事務を合理化し、及び効率化することに伴い、裁判官以外の裁判所の職員の員数を17人減少しようとするもの		

(令和7年1月調査)

附帯決議	処理状況	処理内容及び今後の予定 (対応困難な場合はその理由)
一 民事訴訟手続の審理期間及び合議率の目標を達成するため、審理期間が長期化している近年の状況を検証し、審理の運用手法、制度の改善等に取り組み、その上で、目標達成に必要な範囲で削減を含め裁判官の定員管理を行うこと。	一部措置済み（令和3年、令和4年、令和5年、令和6年）	裁判所としては、第一審の訴訟手続を2年以内のできるだけ短期間に終局させるとともに、当事者である国民のニーズを踏まえ、充実した手続を実施する方策の一環として、合議体による審理の充実・活用を図るよう努力しているところであり、裁判の迅速化に関する法律第8条第1項に定められた裁判の迅速化に係る検証において、審理期間が長期化している状況を不斷に検証するとともに、争点整理手続の実情や合議体による審理の実情等を分析・検証するなどし、合理的期間内に充実した適正な裁判が実現されるよう検討を続けている。これまでも裁判所としては、裁判官を増員し、裁判官が適切な訴訟指揮権行使して終期を見通した計画的な審理の実践や合議事件の審理の充実強化を図る態勢を整えるとともに、訴訟関係人の理解と協力を得つつ、争点中心型審理の実践に努めるなど、審理期間及び合議率の目標達成のため検討を続けてきたところであり、令和6年度においても、事件動向等を注視し、適正迅速な事件処理に支障を来すことのないよう、必要な人員配置を行った。

<p>二 裁判所職員定員法の改正を行う場合には、引き続き、判事補から判事に任命されることが見込まれる者の概数と判事の欠員見込みの概数を明らかにし、その定員が適正であることを明確にすること。</p>	<p>一部措置済み（令和6年）</p>	<p>裁判所としては、判事補から判事に任命されることが見込まれる者の概数及び判事の欠員見込みの概数及びその定員が適正であることについては、委員会質疑を通じて明らかにする予定である。</p>
<p>三 平成二十五年三月二十六日、平成二十八年三月十八日、平成二十九年三月三十一日及び令和二年四月三日の当委員会における各附帯決議等を踏まえ、最高裁判所において、引き続き、判事補の定員の充足に努めるとともに、判事補の定員の在り方について、更なる削減等も含め検討していくこと。</p>	<p>措置済み（令和4年）</p>	<p>裁判所としては、引き続き、裁判官にふさわしい資質・能力を備えた人をできるだけ多く裁判官に採用できるよう努めるとともに、判事補の定員について、本附帯決議の趣旨も踏まえて総合的に検討した結果、令和4年度に判事補40人の減員を行ったところである。</p>
<p>四 現在の法曹養成制度の下で法曹志望者の減少について顕著な改善傾向が見られないことを踏まえ、そのことが法曹の質や判事補任官者数に及ぼす影響につき必要な分析を行い、その結果を国会に示すとともに、法改正を踏まえた更なる法曹養成機能の向上、法曹志望者の増加等に向けた取組をより一層進めること。</p>	<p>一部措置済み（令和4年、令和6年）</p>	<p>法曹志望者数の減少、ひいては司法修習生の減少が判事補任官者数に及ぼす影響については、必要な分析を行った上で、委員会質疑を通じて示す予定である。</p>
<p>五 司法制度に対する信頼確保のため、訟務分野において国の指定代理人として活動する裁判官出身の検事の数の縮小を含む必要な取組を進めること。</p>		

※ 太枠の中を記入してください。

※ 处理状況の欄には、措置済み、一部措置済み、検討中、未着手の中から、調査時点における状況を選択して記入してください。

措置済み、一部措置済みの場合は、措置をした年も記載してください。

※ 他府省所管事項の場合は、所管府省を速やかにご連絡ください。

衆議院法務委員会

裁判所職員定員法の一部を改正する法律案に対する附帯決議

議決年月日 (回次)	令和4年3月9日 (第208回国会)	提出会派 結果	自民、立民、維新、公明、国民 賛成多数 (反対ー共産)
議案の概要	近年の事件動向及び判事補の充員状況を踏まえ、判事補の員数を40人減少するとともに、裁判所の事務を合理化し、及び効率化することに伴い、裁判官以外の裁判所の職員の員数を26人減少するもの		

(令和7年1月調査)

附帯決議	処理状況	処理内容及び今後の予定 (対応困難な場合はその理由)

<p>一 民事訴訟手続の審理期間及び合議率の目標を達成するため、審理期間が長期化している近年の状況を検証し、審理の運用手法、制度の改善等に取り組むとともに、産業の高度化や国際化に対応できるよう裁判官の能力及び職責の重さの自覚の一層の向上に努めること。</p>	<p>一部措置済み（令和4年、令和5年、令和6年）</p>	<p>裁判所としては、第一審の訴訟手続を2年以内のできるだけ短期間に終局させるとともに、当事者である国民のニーズを踏まえ、充実した手続を実施する方策の一環として、合議体による審理の充実・活用を図るよう努力しているところであり、裁判の迅速化に関する法律第8条第1項に定められた裁判の迅速化に係る検証において、審理期間が長期化している状況を不斷に検証するとともに、争点整理手続の実情や合議体による審理の実情等を分析・検証するなどし、合理的期間内に充実した適正な裁判が実現されるよう検討を続けている。これまで裁判所としては、裁判官を増員し、裁判官が適切な訴訟指揮権を行使して終期を見通した計画的な審理の実践や合議事件の審理の充実強化を図る態勢を整えるとともに、訴訟関係人の理解と協力を得つつ、争点中心型審理の実践に努めるなど、審理期間及び合議率の目標達成のため検討を続けてきたところである。</p> <p>また、専門的知見その他必要な知識・技法の習得及び力量の向上のため、争点整理、合議等の審理の在り方や専門的な知見を要する分野等について、裁判官を対象とする研究会を実施するなどしてきたところであり、引き続き、充実した研修の実施に努めたい。</p>
<p>二 裁判所職員定員法の改正を行う場合には、引き続き、判事補から判事に任命されることが見込まれる者の概数と判事の欠員見込みの概数を明らかにし、その定員が適正であることを明確にすること。</p>	<p>一部措置済み（令和6年）</p>	<p>裁判所としては、判事補から判事に任命されることが見込まれる者の概数及び判事の欠員見込みの概数及びその定員が適正であることについては、委員会質疑を通じて明らかにする予定である。</p>

<p>三 平成二十五年三月二十六日、平成二十八年三月十八日、平成二十九年三月三十一日、令和二年四月三日及び令和三年三月十二日の当委員会における各附帯決議等を踏まえ、最高裁判所において、引き続き、判事補の定員の充足に努めるとともに、判事補の定員の在り方について、現実的な実員の増減見通しも踏まえて更なる削減等も含め検討していくこと。</p>	<p>措置済み（令和5年）</p>	<p>裁判所としては、引き続き、裁判官にふさわしい資質・能力を備えた人をできるだけ多く裁判官に採用できるよう努めるとともに、判事補の定員について、本附帯決議の趣旨も踏まえて総合的に検討した結果、令和5年度に判事補15人の減員を行ったところである。</p>
<p>四 現在の法曹養成制度の下で法曹志望者の数について顕著な改善傾向が見られないことを踏まえ、そのことが法曹の質や判事補任官者数に及ぼす影響につき引き続き必要な分析を行い、その結果を国会に示すとともに、同制度や法改正の趣旨を踏まえた更なる法曹養成機能の向上、法曹志望者の増加等に向けた取組をより一層進めること。</p>	<p>一部措置済み（令和6年）</p>	<p>法曹志望者数の減少、ひいては司法修習生の減少が判事補任官者数に及ぼす影響については、必要な分析を行った上で、委員会質疑を通じて示す予定である。</p>
<p>五 司法制度に対する信頼確保のため、訟務分野において国の指定代理人として活動する裁判官出身の検事の数の縮小を含む必要な取組を進めること。</p>		
<p>六 裁判手続等のデジタル化の進捗状況を踏まえ、合理化・効率化が可能な事務と注力すべき事務をそれぞれ考慮した上で適切な人員配置を行うよう努めるとともに、裁判官以外の裁判所職員の労働時間を把握し、適切な労働環境を整えること。</p>	<p>一部措置済み（令和4年、令和7年）</p>	<p>裁判所としては、裁判手続等のデジタル化に伴って合理化・効率化される事務処理の在り方などについて検討を進めているところであり、引き続き裁判手続等のデジタル化の状況なども踏まえて、必要な人的態勢の整備に努めてまいりたい。また、裁判官以外の裁判所職員に関しては、実際の超過勤務の把握に努め、適切な労働環境を整えてきたところであるが、これに加えて、最高裁では令和7年1月から勤務時間を管理するシステムを導入したところである。</p>

※ 太枠の中を記入してください。

※ 処理状況の欄には、措置済み、一部措置済み、検討中、未着手の中から、調査時点における状況を選択して記入してください。

措置済み、一部措置済みの場合は、措置をした年も記載してください。

※ 他府省所管事項の場合は、所管府省を速やかにご連絡ください。

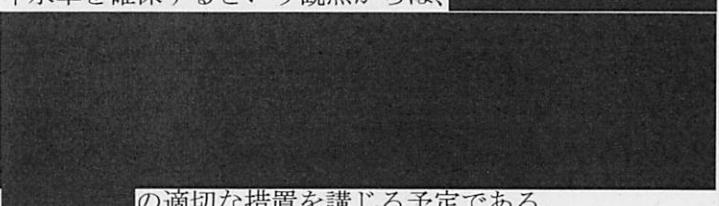
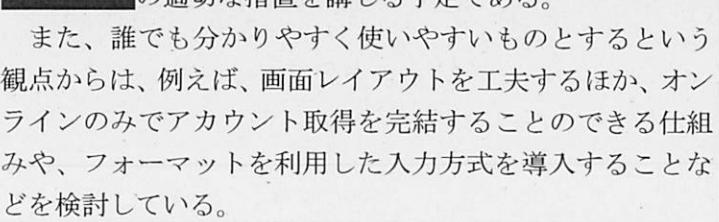
衆議院法務委員会

民事訴訟法等の一部を改正する法律案に対する附帯決議

議決年月日 (回次)	令和4年4月20日 (第208回国会)	提出会派	自民、立民、維新、公明、国民
		結果	賛成多数（反対－共産）
議案の概要	<p>民事訴訟手続等の一層の迅速化及び効率化等を図り、民事裁判を国民がより利用しやすいものとする観点から、電子情報処理組織を使用して行うことができる申立て等の範囲の拡大、申立て等に係る書面及び判決書等を電子化する規定並びに映像と音声の送受信による口頭弁論の手続を行うことを可能とする規定の整備、当事者の申出により一定の事件について一定の期間内に審理を終えて判決を行う手続の創設、訴えの提起の手数料等に係る納付方法の見直し等の措置を講ずるとともに、離婚の訴えに係る訴訟等において映像と音声の送受信による手続で和解の成立等を可能とする規定を整備するほか、犯罪被害者等の権利利益の一層の保護を図るため、民事関係手続において犯罪被害者等の氏名等の情報を秘匿する制度を創設するもの</p>		

(令和7年1月調査)

附帯決議	処理状況	処理内容及び今後の予定 (対応困難な場合はその理由)
一 本法施行後において、訴訟手続の電子化が速やかに行われ、適切な裁判が実施されるよう環境整備及び事務負担の軽減に努めること。	一部措置済み（令和4年度、令和5年度、令和6年度）	<p>裁判所においては、改正法の施行前の段階から、ウェブ会議等のITツールを活用した争点整理手続の運用を実施したり、電子提出の先行実施として、民事裁判書類電子提出システム（通称「mints（ミンツ）」）の運用を開始し、その運用庁を順次拡大したりしてきた。</p> <p>また、令和6年3月からは、ウェブ会議を用いた口頭弁論の運用を開始している。</p> <p>このような取組を通じて、電子化に向けた環境整備を進めている。</p>

<p>二 訴訟手続の電子化を円滑に進めることができ利用者の利益になるという観点から、施行後五年を経過した場合における検討に当たっては、改正法の施行状況や施行後の情報通信技術の進展等の社会経済情勢を踏まえつつ、電子情報処理組織による申立て等の利用を拡大・促進するための方策について検討すること。</p>		
<p>三 訴訟代理人に委任しない者が電子情報処理組織による申立て等を容易に利用できるよう、関係機関及び日本弁護士連合会・日本司法書士会連合会等と連携し、必要に応じて弁護士・司法書士等による支援を受けられる環境整備に努めること。</p>		
<p>四 訴訟手続は国民の権利関係の得喪に深くかかわり、その電子化は重大な事柄であるから、制度の円滑な施行を実現し、その利用を促進するため、関係機関及び日本弁護士連合会・日本司法書士会連合会等と連携して、制度の周知を十分に図ること。</p>		
<p>五 裁判所の電子情報処理組織を構築するに当たっては、サイバー攻撃などで訴訟記録が流出して訴訟関係者のプライバシー侵害が起こらないよう、適切なセキュリティ水準を確保するとともに、誰でも分かりやすく使いやすいものとするよう努めること。</p>	<p>検討中</p>	<p>裁判所の電子情報処理組織について、適切なセキュリティ水準を確保するという観点からは、   の適切な措置を講じる予定である。</p> <p>また、誰でも分かりやすく使いやすいものとするという観点からは、例えば、画面レイアウトを工夫するほか、オンラインのみでアカウント取得を完結することのできる仕組みや、フォーマットを利用した入力方式を導入することなどを検討している。</p>

<p>六 訴訟記録を電子化するに当たり、事件記録の保存期間を広げるとともに、判決書については、国民が調査や分析しやすいものとなるよう努めること。</p>	<p>検討中</p>	<p>裁判所としては、電子化された記録の特性等を踏まえ、電子化に伴う記録の保存期間の在り方について検討を進めているところである。また、民事事件の判決書の利活用に関しては、法務省において、令和7年常会に「民事裁判情報の活用の促進に関する法律案」が提出される予定と承知しているところ、同法律案が成立すれば、最高裁として、民事裁判情報の提供など適切な協力をしていく予定である。</p>
<p>七 ウェブ会議の方法による証人尋問等については、心証形成が法廷で対面して行われるものとは異なる場合もあることを踏まえ、裁判所における相当性の判断が適切に行われるよう法制度の趣旨について周知すること。</p>		
<p>八 口頭弁論等における当事者等のウェブ会議による参加については、当事者や証人へのなりすましを防止すること及び第三者からの不当な影響を排除すること並びにウェブ会議の録音・録画を防止することを確保できるよう努めること。</p>	<p>一部措置済み（令和4年度、令和5年度、令和6年度）</p>	<p>民事訴訟規則等の一部を改正する規則を制定し、当事者がウェブ会議等の方法により口頭弁論等の手続に参加する際には、裁判所は、通話者の所在する場所の状況がウェブ会議等によって手続を実施するために適切なものであることを確認しなければならない旨の規定を新設しており、令和6年3月に開始されたウェブ会議を用いた口頭弁論の下においては、こうした規定に基づき、適切な運用が行われている。</p>
<p>九 訴えの提起の手数料の在り方について、本法施行後における裁判手続の事務処理の実態等のほか、訴える側の資力により、適正な訴額の請求を断念せざるを得ない状況があるとの指摘も踏まえつつ、負担の公平の見地から、必要な検討を行うこと。</p>		

十 訴訟手続の電子化を速やかに実現させるため、裁判所の必要な人的態勢の整備及び予算の確保に努めること。	一部措置済み（令和5年、令和6年）	裁判所としては、訴訟手続の電子化に向けて検討を進めているところであり、令和5年度に引き続き、令和6年度においても、裁判手続等のデジタル化を推進するために裁判所事務官の増員を行い、必要な予算を確保したところである。引き続き必要な人的態勢の整備及び予算の確保に努めてまいりたい。
十一 民事訴訟手続を利用する障害者に対する手続上の配慮の在り方について、本法施行後の制度の運用状況及び障害者の意見も踏まえて、障害者のアクセスの向上に資する法整備の要否も含めて検討し、必要な措置を講じること。	検討中	（最高裁判所）法務省、最高裁判所及び日本弁護士連合会で構成される民事司法の在り方に関する法曹三者連絡協議会の分科会である「障害者の民事司法へのアクセス拡充に関するワーキンググループ」において、民事裁判手続のIT化等の動向も踏まえつつ、現行制度における課題・対応策について、必要な検討を進めている。
十二 附則第百二十六条の規定による検討については、改正法の施行状況や施行後の情報通信技術の進展等を踏まえて、適時に行うこと。		

※ 太枠の中を記入してください。

※ 処理状況の欄には、措置済み、一部措置済み、検討中、未着手の中から、調査時点における状況を選択して記入してください。

措置済み、一部措置済みの場合は、措置をした年も記載してください。

※ 他府省所管事項の場合は、所管府省を速やかにご連絡ください。

衆議院法務委員会

民法等の一部を改正する法律案に対する附帯決議

議決年月日 (回次)	令和4年11月9日 (第210回国会)	提出会派 結果	自民、立憲、維新、公明、国民 全会一致
議案の概要	子の権利利益を保護する観点から、嫡出の推定が及ぶ範囲の見直し及びこれに伴う女性に係る再婚禁止期間の廃止等の措置を講ずるとともに、親権者の懲戒権に係る規定を削除し、子の監護及び教育において子の人格を尊重する義務を定める等の措置を講ずるもの		

(令和7年1月調査)

附帯決議	処理状況	処理内容及び今後の予定 (対応困難な場合はその理由)
一 嫡出の推定が及ぶ範囲の見直し及びこれに伴う女性に係る再婚禁止期間の廃止など本法による改正内容について十分な周知に努めること。特に、本法の施行の日前に生まれた子に適用される子及び母の否認権の行使については本法の施行の日から一年間に限り認められていることに鑑み、対象となる無戸籍者等に対する周知が遺漏なく行われるよう努めること。		
二 本改正が無戸籍者対策として行われることに伴い、無戸籍者が司法手続を利用しやすくなるための支援や、行政サービスを受けられるよう、関係機関が綿密な連携に努めること。		

<p>三 母や子が父を相手に否認権を行使するに当たり、DVや児童虐待等がある場合があることを踏まえ、相手方と対面することなく、また、相手方に住所等を知られることなく手続を行うことができる措置を講じるなどの柔軟な運用について周知すること。</p>	<p>措置済み（令和5年度、令和6年度）</p>	<p>これまで、DV等の事案については、各家庭裁判所において、当事者が裁判所で接触することがないように様々な配慮をしてきたところであるが、改正法及び附帯決議の趣旨を踏まえ、今後とも当事者に対する教示が遗漏なく行われるよう改めて注意喚起した。また、住所等の相手方に知られると支障を生ずる情報については、これまで、手続案内時等において、当該情報を相手方に開示しないことを希望する申出ができるなどを教示するなどして適切に対応してきたところであるが、令和5年2月20日に施行された当事者に対する住所、氏名等の秘匿制度の説明について裁判所ウェブサイトに掲載して周知した。</p>
<p>四 本法施行後も、本改正が無戸籍者問題の解消に資するものとなっているかを継続して検証し、必要に応じて、嫡出推定制度等について更なる検討を行うこと。</p>		
<p>五 国籍法第三条の改正により、国籍取得後に事実に反する認知が明らかとなった場合には、認知の無効を争うことができなくなった後であっても当該認知された子の国籍取得が当初から無効であったこととなり日本国籍が認められなくなることを踏まえ、無国籍者の発生防止の観点や日本人として生活していた実態等を十分に勘案して、帰化又は在留資格の付与に係る手続において柔軟かつ人道的な対応を行うこと。</p>		

六 民法の懲戒権の規定に関しては、児童虐待の口実として使われることを防止するために当該規定の削除等が行われることを踏まえ、体罰等は許されないという認識を社会全体で共有するために積極的かつ細やかな広報活動を行うなど、本改正の趣旨についての周知徹底及び関係機関との連携に努めること。

- ※ 太枠の中を記入してください。
- ※ 处理状況の欄には、措置済み、一部措置済み、検討中、未着手の中から、調査時点における状況を選択して記入してください。
措置済み、一部措置済みの場合は、措置をした年も記載してください。
- ※ 他府省所管事項の場合は、所管府省を速やかにご連絡ください。

衆議院法務委員会

裁判所職員定員法の一部を改正する法律案に対する附帯決議

議決年月日 (回次)	令和5年3月10日 (第211回国会)	提出会派	自民、立憲、維新、公明、国民
		結果	賛成多数（反対－共産）
議案の概要	近年の事件動向及び判事補の充員状況を踏まえ、判事補の員数を15人減少するとともに、裁判所の事務を合理化し、及び効率化することに伴い、裁判官以外の裁判所の職員の員数を31人減少するもの		

(令和7年1月調査)

附帯決議	処理状況	処理内容及び今後の予定 (対応困難な場合はその理由)

一 民事訴訟手続の審理期間及び合議率の目標を達成するため、審理期間が長期化している近年の状況を検証し、審理の運用手法、制度の改善等に取り組むとともに、産業の高度化や国際化に対応できるよう裁判官の能力及び職責の重さの自覚の一層の向上に努めること。

一部措置済み（令和5年、令和6年）

裁判所としては、第一審の訴訟手続を2年以内のできるだけ短期間に終局させるとともに、当事者である国民のニーズを踏まえ、充実した手続を実施する方策の一環として、合議体による審理の充実・活用を図るよう努力しているところであり、裁判の迅速化に関する法律第8条第1項に定められた裁判の迅速化に係る検証において、審理期間が長期化している状況を不斷に検証するとともに、争点整理手続の実情や合議体による審理の実情等を分析・検証するなどし、合理的期間内に充実した適正な裁判が実現されるよう検討を続けている。これまで裁判所としては、裁判官を増員し、裁判官が適切な訴訟指揮権を行使して終期を見通した計画的な審理の実践や合議事件の審理の充実強化を図る態勢を整えるとともに、訴訟関係人の理解と協力を得つつ、争点中心型審理の実践に努めるなど、審理期間及び合議率の目標達成のため検討を続けてきたところである。

また、専門的知見その他必要な知識・技法の習得及び力量の向上のため、争点整理、合議等の審理の在り方や専門的な知見を要する分野等について、裁判官を対象とする研究会を実施するなどしてきたところであり、引き続き、充実した研修の実施に努めたい。

二 裁判所職員定員法の改正を行う場合には、引き続き、判事補から判事に任命されることが見込まれる者の概数と判事の欠員見込みの概数を明らかにし、その定員が適正であることを明確にすること。

一部措置済み（令和6年）

裁判所としては、判事補から判事に任命されることが見込まれる者の概数及び判事の欠員見込みの概数及びその定員が適正であることについては、委員会質疑を通じて明らかにする予定である。

<p>三 平成二十五年三月二十六日、平成二十八年三月十八日、平成二十九年三月三十一日、令和二年四月三日、令和三年三月十二日及び令和四年三月九日の当委員会における各附帯決議等を踏まえ、最高裁判所において、引き続き、判事補の定員の充足に努めるとともに、判事補の定員の在り方について、現実的な実員の増減見通しも踏まえて更なる削減等も含め検討していくこと。</p>	<p>検討中</p>	<p>裁判所としては、引き続き、裁判官にふさわしい資質・能力を備えた人をできるだけ多く裁判官に採用できるよう努めるとともに、判事補の定員について、今後の事件動向や充員の見込み等を踏まえて検討を続けてまいりたい。</p>
<p>四 現在の法曹養成制度の下で法曹志望者の数について顕著な改善傾向が見られないことを踏まえ、そのことが法曹の質や判事補任官者数に及ぼす影響につき引き続き必要な分析を行い、その結果を国会に示すとともに、同制度や法改正の趣旨を踏まえた更なる法曹養成機能の向上、法曹志望者の増加等に向けた取組をより一層進めること。</p>	<p>一部措置済み（令和6年）</p>	<p>法曹志望者数の減少、ひいては司法修習生の減少が判事補任官者数に及ぼす影響については、必要な分析を行った上で、委員会質疑を通じて示す予定である。</p>
<p>五 裁判手続等のデジタル化の進捗状況を踏まえ、合理化・効率化が可能な事務と注力すべき事務をそれぞれ考慮した上で適切な人員配置を行うよう努めるとともに、裁判官以外の裁判所職員の労働時間を把握し、適切な労働環境を整えること。</p>	<p>一部措置済み（令和5年、令和7年）</p>	<p>裁判所としては、裁判手続等のデジタル化に伴って合理化・効率化される事務処理の在り方などについて検討を進めているところであり、引き続き裁判手続等のデジタル化の状況なども踏まえて、必要な人的態勢の整備に努めてまいりたい。また、裁判官以外の裁判所職員に関しては、実際の超過勤務の把握に努め、適切な労働環境を整えてきたところであるが、これに加えて、最高裁では令和7年1月から勤務時間を管理するシステムを導入したところである。</p>

※ 太枠の中を記入してください。

※ 処理状況の欄には、措置済み、一部措置済み、検討中、未着手の中から、調査時点における状況を選択して記入してください。

措置済み、一部措置済みの場合は、措置をした年も記載してください。

※ 他府省所管事項の場合は、所管府省を速やかにご連絡ください。

衆議院法務委員会

刑事訴訟法等の一部を改正する法律案に対する附帯決議

議決年月日 (回次)	令和5年4月12日 (第211回国会)	提出会派	自民、立憲、維新、公明、国民
		結果	賛成多数（反対－共産）
議案の概要	被告人や刑が確定した者の逃亡を防止し、公判期日等への出頭及び裁判の執行を確保するため、逃走の罪の構成要件及び法定刑を改め、公判期日への不出頭罪等を新設するほか、保釈等をされた者に対する監督者制度、拘禁刑以上の実刑の言渡しを受けた者等が出国により刑の執行を免れることを防止するための制度、位置測定端末により保釈された者の位置情報を取得する制度等の創設等を行うとともに、刑事手続において犯罪被害者等の情報を保護するため、犯罪被害者等の個人特定事項の記載がない起訴状抄本等を被告人に送達する措置等を導入するもの		

(令和7年1月調査)

附帯決議	処理状況	処理内容及び今後の予定 (対応困難な場合はその理由)
一 位置測定端末の規格の設定等に当たっては、位置測定端末を装着していることができるだけ外部から目立たず、身体の動きを極力妨げないものとする等、保釈中の被告人のプライバシーの保護及び行動の自由等に十分に配慮したものとすること。	検討中	改正法の施行（公布の日から起算して5年を超えない範囲内において政令で定める日）に向け、附帯決議の趣旨等を踏まえつつ、位置測定端末の開発等について検討を行っている。
二 位置測定端末を装着した被告人の所在禁止区域への立ち入り等が発生した場合に、迅速に状況を確認し、勾引をすることができるよう、十分な訓練の実施や関係機関との連携体制の確立等に努めること。	検討中	改正法の施行（公布の日から起算して5年を超えない範囲内において政令で定める日）に向け、附帯決議の趣旨等を踏まえつつ、位置測定端末を装着した被告人が所在禁止区域へ立ち入った場合の運用の在り方について検討を行っている。

<p>三 保釈中の被告人に係る端末位置情報を表示して閲覧することができる者及び閲覧することができる場合を限定した趣旨に鑑み、閲覧設備の運用に当たっては、端末位置情報が漏出することがないよう適切な措置を講ずること。</p>	<p>検討中</p>	<p>改正法の施行（公布の日から起算して5年を超えない範囲内において政令で定める日）に向け、附帯決議の趣旨等を踏まえつつ、端末位置情報の閲覧に関する運用について検討を行っている。</p>
<p>四 監督者を選任して行う保釈については、監督者として選任される者にとって過度の負担にならないよう留意するとともに、監督者を得られないことを理由として保釈される場合が限定されることがないよう、制度の趣旨を周知すること。</p>	<p>措置済み（令和5年）</p>	<p>各裁判所に対し、改正法及び附帯決議の内容を周知するとともに、監督者制度を踏まえた保釈等の運用の在り方について、裁判官同士で議論する場を設けた。</p>
<p>五 本改正における逃亡防止措置の新設の趣旨を踏まえ、被告人や刑が確定した者等の身柄の確保及び護送等の場における逃亡防止に万全を期すとともに、必要な体制の整備に努めること。</p>		
<p>六 犯罪被害者等の氏名等の情報秘匿制度の運用に当たっては、性犯罪の被害者等の権利の保護という目的の実現を図るとともに、公判における被告人の防御に実質的な不利益が生ずることがないよう、被害者側及び被告人側の双方の権利に十分に配慮するよう努めること。</p>	<p>措置済み（令和5年）</p>	<p>各裁判所に対し、改正法及び附帯決議の内容を周知するとともに、犯罪被害者等の氏名等の情報秘匿制度の運用の在り方について、裁判官同士で議論する場を設けた。</p>

※ 太枠の中を記入してください。

※ 処理状況の欄には、措置済み、一部措置済み、検討中、未着手の中から、調査時点における状況を選択して記入してください。

措置済み、一部措置済みの場合は、措置をした年も記載してください。

※ 他府省所管事項の場合は、所管府省を速やかにご連絡ください。

衆議院法務委員会

民事関係手続等における情報通信技術の活用等の推進を図るための関係法律の整備に関する法律案に対する附帯決議

議決年月日 (回次)	令和5年6月2日 (第211回国会)	提出会派	自民、立憲、維新、公明、国民、共産
		結果	全会一致
議案の概要	民事関係手続等の一層の迅速化及び効率化等を図り、民事関係手続等を国民がより利用しやすいものとする観点から、民事執行手続等におけるインターネットを利用した申立て等の範囲の拡大、事件記録の電子化及びウェブ会議を利用した期日への参加並びに公正証書の作成手続のデジタル化等の措置を講ずるもの		

(令和7年1月調査)

附帯決議	処理状況	処理内容及び今後の予定 (対応困難な場合はその理由)
一 近年における情報通信技術の進展等の社会経済情勢の変化への対応を図るとともに、時代に即した民事関係手続等の一層の迅速化及び効率化を可能な限り早期に実現するため、本法の全面施行については、慎重かつ丁寧な審理の妨げとならないよう、また裁判所職員及び当事者等に対し過度な負担とならないよう配慮しつつも速やかに適切な時期の施行に向けた検討を進めるよう努めること。		【法務省において回答】
二 民事関係手続等のみならず、刑事事件及び少年事件の手続においても、被告人等の人権保障に十分配慮した上で、情報通信技術の活用が迅速に実現されるよう、より一層の検討に努めること。		【法務省において回答】

<p>三 裁判所の電子情報処理組織を構築するに当たっては、サイバー攻撃などで事件記録が流出して事件関係者のプライバシー侵害が起こらないよう、適切なセキュリティ水準を確保するとともに、代理人等に委任しない者が電子情報処理組織による申立てを容易に利用できるよう、日本弁護士連合会・日本司法書士会連合会等の意見を聞き、利便性を高めるよう努めること。</p>	<p>検討中</p>	<p>裁判所の電子情報処理組織について、適切なセキュリティ水準を確保するという観点からは、 [REDACTED] [REDACTED]の適切な措置を講じる予定である。</p> <p>また、代理人等に委任しない者が電子情報処理組織による申立てを容易に利用できるようにするという観点からは、 [REDACTED]を検討しており、こうした検討に際しては、日本弁護士連合会・日本司法書士会連合会等の意見を聴取していく予定である。</p>
<p>四 情報通信技術が進展する中、ウェブ会議におけるなりすましや第三者による不当な介入、デジタル証拠の漏洩や改ざん防止に向けて不断の検討及び対応に努めること。</p>	<p>一部措置済み（令和6年度）</p>	<p>民事訴訟規則等の一部を改正する規則を制定し、民事執行の手続や破産手続等においても、当事者等がウェブ会議等の方法により手続に関与する際には、裁判所は、通話者の所在する場所の状況がウェブ会議等によって手続を実施するため適切なものであることを確認しなければならない旨の規定を新設するなどしたところであり、ウェブ会議に関する規定の施行に向けて、適切な運用が行われるように努めたい。</p> <p>デジタル証拠の漏洩や改ざんを防止する方策としては、裁判所の情報処理組織について適切なセキュリティ水準を確保することができるよう、検討を進めているところである。</p>

五 代理人等に委任しない者が電子情報処理組織による申立て等を容易に利用できるよう、関係機関及び日本弁護士連合会・日本司法書士会連合会等と連携し、必要に応じて弁護士・司法書士等による支援を受けられる環境整備に努めること。		
六 民事関係手続の電子化を速やかに実現させるため、裁判所の必要な人的体制の整備及び予算の確保に努めること。	一部措置済み（令和6年）	裁判所としては、民事関係手続の電子化に向けて検討を進めているところであります、令和6年度に、裁判手続等のデジタル化を推進するために裁判所事務官の増員を行い、必要な予算を確保したところである。引き続き必要な人的態勢の整備及び予算の確保に努めてまいりたい。
七 民事関係手続を利用する障害者に対する手続上の配慮の在り方について、本法施行後の制度の運用状況及び障害者の意見も踏まえて、障害者のアクセスの向上に資する法整備の要否も含めて検討し、必要な措置を講じること。		【法務省において回答】
八 第三百八十九条の規定による検討については、本法の施行状況、施行後の情報通信技術の進展やプライバシーに関する規範意識の動向等を踏まえて、適時に行うこと。		

※ 太枠の中を記入してください。

※ 处理状況の欄には、措置済み、一部措置済み、検討中、未着手の中から、調査時点における状況を選択して記入してください。

措置済み、一部措置済みの場合は、措置をした年も記載してください。

※ 他府省所管事項の場合は、所管府省を速やかにご連絡ください。

衆議院法務委員会

裁判所職員定員法の一部を改正する法律案に対する附帯決議

議決年月日 (回次)	令和6年3月15日 (第213回国会)	提出会派 結果	自民、立憲、維新、公明 賛成多数（反対－共産）
議案の概要	裁判所の事務を合理化し、及び効率化することに伴い、裁判官以外の裁判所の職員の員数を31人減少するもの		

（令和7年1月調査）

附帯決議	処理状況	処理内容及び今後の予定 (対応困難な場合はその理由)
一 民事訴訟手続の審理期間及び合議率の目標を達成するため、審理期間が長期化している近年の状況を検証し、審理の運用手法、制度の改善等に取り組むとともに、産業の高度化や国際化に対応できるよう裁判官の能力及び職責の重さの自覚の一層の向上に努めること。	一部措置済み（令和6年）	<p>裁判所としては、第一審の訴訟手続を2年以内のできるだけ短期間に終局させるとともに、当事者である国民のニーズを踏まえ、充実した手続を実施する方策の一環として、合議体による審理の充実・活用を図るよう努力しているところであり、裁判の迅速化に関する法律第8条第1項に定められた裁判の迅速化に係る検証において、審理期間が長期化している状況を不斷に検証するとともに、争点整理手続の実情や合議体による審理の実情等を分析・検証するなどし、合理的期間内に充実した適正な裁判が実現されるよう検討を続けている。これまでも裁判所としては、裁判官を増員し、裁判官が適切な訴訟指揮権行使して終期を見通した計画的な審理の実践や合議事件の審理の充実強化を図る態勢を整えるとともに、訴訟関係人の理解と協力を得つつ、争点中心型審理の実践に努めるなど、審理期間及び合議率の目標達成のため検討を続けてきたところである。</p> <p>また、専門的知見その他必要な知識・技法の習得及び力量の向上のため、争点整理、合議等の審理の在り方や専門的な知見を要する分野等について、裁判官を対象とする研究会を実施するなどしてきたところであり、引き続き、充実した</p>

		研修の実施に努めたい。
二 裁判所職員定員法の改正を行う場合には、引き続き、判事補から判事に任命されることが見込まれる者の概数と判事の欠員見込みの概数を明らかにし、その定員が適正であることを明確にすること。	検討中	裁判所としては、判事補から判事に任命されることが見込まれる者の概数及び判事の欠員見込みの概数及びその定員が適正であることについては、委員会質疑を通じて明らかにする予定である。
三 平成二十五年三月二十六日、平成二十八年三月十八日、平成二十九年三月三十一日、令和二年四月三日、令和三年三月十二日、令和四年三月九日及び令和五年三月十日の当委員会における各附帯決議等を踏まえ、最高裁判所において、引き続き、判事補の定員の充足に努めるとともに、判事補の定員の在り方について、現実的な実員の増減見通しも踏まえて更なる削減等も含め検討していくこと。	検討中	裁判所としては、引き続き、裁判官にふさわしい資質・能力を備えた人をできるだけ多く裁判官に採用できるよう努めるとともに、判事補の定員について、今後の事件動向や充員の見込み等を踏まえて検討を続けてまいりたい。
四 現在の法曹養成制度の下で法曹志望者の数について顕著な改善傾向が見られないことを踏まえ、そのことが法曹の質や判事補任官者数に及ぼす影響につき引き続き必要な分析を行い、その結果を国会に示すとともに、同制度や法改正の趣旨を踏まえた更なる法曹養成機能の向上、法曹志望者の増加等に向けた取組をより一層進めること。	検討中	法曹志望者数の減少、ひいては司法修習生の減少が判事補任官者数に及ぼす影響については、必要な分析を行った上で、委員会質疑を通じて示す予定である。
五 裁判手続等のデジタル化の進捗状況を踏まえ、合理化・効率化が可能な事務と注力すべき事務をそれぞれ考慮した上で裁判官・裁判所職員の適切な人員配置を行うよう努めるとともに、裁判官以外の裁判所職員の労働時間を把握し、適切な労働環境を整えること。	一部措置済み（令和7年）	裁判所としては、裁判手続等のデジタル化に伴って合理化・効率化される事務処理の在り方などについて検討を進めているところであり、引き続き裁判手続等のデジタル化の状況なども踏まえて、必要な人的態勢の整備に努めてまいりたい。また、裁判官以外の裁判所職員に関しては、実際の超過勤務の把握に努め、適切な労働環境を整えてきたところであるが、これに加えて、最高裁では令和7年1月から勤務時間を管理するシステムを導入したところである。
六 両親の離婚時における子どもの利益確保の要請	検討中	裁判所としては、子をめぐる事件を含む家事事件の事件

<p>等への対応、その他価値観の多様化に伴う家事事件の複雑化・困難化の動向等に対して、家庭裁判所における多角的な対応が適切かつ十分に行われるよう、家庭裁判所の人的・物的体制の整備を進めること。</p>		<p>動向や事務処理状況等を踏まえながら、家庭裁判所に期待される役割を適切に果たせるよう、家庭裁判所の人的・物的態勢の整備を進めてまいりたい。</p>
<p>七 裁判官・裁判所職員が健康的に働き続けられる職場環境を整備すること。子育て、介護など仕事と家庭の両立に向けた取組をより一層進めること。</p>	<p>一部措置済み（令和6年）</p>	<p>裁判所としては、全ての職員が心身ともに健康的に働き続けることができるよう、健康診断や面接指導、ストレスチェックを実施しているほか、カウンセラーによる相談態勢の整備や健康に関する知識付与等にも取り組んでいる。</p> <p>また、職員の育児・介護等にかかる状況を把握するとともに、両立支援制度を周知、説明し、育児・介護に伴う休暇・休業等の計画的な取得を促すなど、育児・介護と仕事の両立支援制度の取得促進を図っている。</p>

- ※ 太枠の中を記入してください。
- ※ 処理状況の欄には、措置済み、一部措置済み、検討中、未着手の中から、調査時点における状況を選択して記入してください。
- ・措置済み、一部措置済みの場合は、措置をした年も記載してください。
- ※ 他府省所管事項の場合は、所管府省を速やかにご連絡ください。

衆議院法務委員会

民法等の一部を改正する法律案に対する附帯決議

議決年月日 (回次)	令和6年4月12日 (第213回国会)	提出会派	自民、立憲、維新、公明
		結果	賛成多数（反対－共産）
議案の概要	子の権利利益を保護する観点から、子の養育についての父母の責務に関する規定の新設、父母が離婚した場合にその双方を親権者と定めることができるようとする等の親権に関する規定の整備、子の監護に要する費用の支払を確保するための制度の拡充、家事審判等の手続における父又は母と子との交流の試行に関する規定の新設等の措置を講ずるもの		

（令和7年1月調査）

附帯決議	処理状況	処理内容及び今後の予定 (対応困難な場合はその理由)
一 施行後の本法の運用状況について公表するとともに、諸外国における子の養育に関する法制の動向等も踏まえ、本法による改正後の家族法制による子の利益の確保の状況、親権者の指定等における父母の真意の反映の程度、DVや児童虐待等を防止して親子の安全・安心を確保するものとなっているか等について不斷に検証し、必要に応じて法改正を含むさらなる制度の見直しについて検討を行うこと。		
二 子の権利利益を保護するための父母の責務の明確化等の本法の趣旨及びその内容について、国民、関係府省庁はもとより、児童扶養手当等の事務を行う地方公共団体及び共同親権の導入により大きく影響を受ける関係機関等に正確に伝わるよう、周知広報の徹底に努めること。特に、親権の単独行使の対象となる民法第八百二十四条の二各項の「急迫の事情」、「監護及び教育に関する日常の行為」、「特定の事項」及び第七百六十六条第一項の「子の監護の		

<p>「分掌」等の概念については、その意義及び具体的な類型等をガイドライン等により明らかにすること。</p>		
<p>三 子の利益の確保の観点から、本法による改正後の家族法制による子の養育に関する事項の決定の場面において子自身の意見が適切に反映されるよう、専門家による聞き取り等の必要な体制の整備、弁護士による子の手続代理人を積極的に活用するための環境整備のほか、子が自ら相談したりサポートが受けられる相談支援の在り方について、関係府省庁を構成員とする検討会において検討を行うこと。</p>		<p>【法務省において回答】</p>
<p>四 父母の別居や離婚に伴う子の養育をめぐる事件の審理に関し、特に子の権利利益を保護する観点に留意し、子の監護の安全や安心への配慮のほか、当事者の意見を適切に聴取しこれを尊重することを含め適切な審理運営がされるよう必要な研修その他の取組を行うこと。</p>	<p>一部措置済み（令和6年度）</p>	<p>これまで子の養育をめぐる事件の審理に当たり、子の監護の安全や安心への配慮等を含めた適切な審理運営について様々な研究会や研修を実施してきたところ、令和6年度においても、裁判官を対象として、子の監護養育をめぐる事件におけるDV及び児童虐待についての共同研究や、外国における別居・離婚後の親権、児童虐待・DVへの法的対応等についての講義を内容とする研究会を実施したほか、子の権利利益を保護する観点も含め、改正法の趣旨・内容について理解を深める研究会を実施した。また、家庭裁判所調査官を対象として、安全をはじめとする子のニーズに着目した子の監護者指定等をめぐる事件の調査事務や、DV・虐待、子の意向・心情等を含む考慮要素の整理を踏まえた親子交流をめぐる事件の調査事務、DV及び児童虐待を含む夫婦間紛争が子の精神発達に及ぼす影響についての研修等を行った。改正法の施行を見据えて、今後も、このような研究会や研修を引き続き実施するほか、改正法の趣旨・内容の理解に資する協議会を設けていく予定である。</p>
<p>五 離婚後の養育費の受給や親子交流等が適切に実施されるよう、我が国における実状調査のほか、諸</p>		<p>【法務省において回答】</p>

<p>外国における運用状況に関する調査研究等を踏まえ、養育費・婚姻費用について裁判実務で用いられている標準算定表を参照して取り決められる額が適正なものとなるための配慮等を含め、国自らによる取組の在り方に加え、民間の支援団体や地方公共団体の取組等への支援の在り方について検討を行うこと。また、調査研究に当たっては、公的機関による養育費の立替払い制度など、養育費の履行確保のさらなる強化について検討を深めること。</p>		
<p>六 父母による子の養育が互いの人格の尊重及び協力関係のもとで適切に進められるよう、離婚前後の子の養育に関する講座の受講や共同養育計画の作成を促進するための事業に対する支援、ADRの利便性の向上など、関係府省庁及び地方公共団体等と連携して必要な施策の検討を図ること。</p>		
<p>七 改正法により家庭裁判所の業務負担の増大及びDV・虐待のある事案への対応を含む多様な問題に対する判断が求められることに伴い、家事事件を担当する裁判官、家事調停官、家庭裁判所調査官等の裁判所職員の増員及び専門性の向上、調停室や児童室等の物的環境の充実、オンラインによる申立てやウェブ会議の利用の拡大等による裁判手続の利便性の向上、子が安心して意見陳述を行うことができる環境の整備など、必要な人的・物的な体制の整備に努めること。</p>	<p>検討中</p>	<p>裁判所としては、事件動向や事務処理状況のほか、改正法の各規定の趣旨・内容を踏まえた適切な審理運用の在り方や改正家族法が各家庭裁判所における事件処理に与える影響等も踏まえながら、家庭裁判所に期待される役割を適切に果たせるよう、家庭裁判所の人的・物的態勢の整備に努めてまいりたい。</p>
<p>八 司法手続における利用者負担の軽減を図るため、法テラスによる民事法律扶助、DV等被害者法律相談援助や地方公共団体における支援事業など、関係機関との連携を一層強化し、必要な施策の充実に努</p>		

<p>めること。</p> <p>九 DV及び児童虐待が身体的な暴力に限られないことに留意し、DVや児童虐待の防止に向けて、被害者支援の一環としての加害者プログラムの実施の推進を図ることを含め、関係機関と連携して被害者の保護・支援策を適切に措置すること。また、居住地や勤務先・通学先等が加害者に明らかになると等によるDV被害や虐待の継続、SNSなどインターネット上の誹謗中傷や濫訴等の新たな被害の発生を回避するための措置を検討すること。</p>		
<p>十 親権者の指定や親子交流等が子の利益のため適切に行われるようにするため、DV及び児童虐待の被害又はそれらのおそれの有無についての認定が適切に行われるよう、必要な研修その他の取組を行うこと。また、父母が互いの親子交流を尊重し、これを妨げる行為を防止する措置等について検討すること。</p>	<p>一部措置済み（令和6年度）</p>	<p>これまでも子の養育をめぐる事件の審理に当たり、子の監護の安全や安心への配慮等を含めた適切な審理運営について様々な研究会や研修を実施してきたところ、令和6年度においても、裁判官を対象として、子の監護養育をめぐる事件におけるDV及び児童虐待についての共同研究や、外国における別居・離婚後の親権、児童虐待・DVへの法的対応等についての講義を内容とする研究会を実施したほか、子の権利利益を保護する観点も含め、改正法の趣旨・内容について理解を深める研究会を実施した。また、家庭裁判所調査官を対象として、安全をはじめとする子のニーズに着目した子の監護者指定等をめぐる事件の調査事務や、DV・虐待、子の意向・心情等を含む考慮要素の整理を踏まえた親子交流をめぐる事件の調査事務、DV及び児童虐待を含む夫婦間紛争が子の精神発達に及ぼす影響についての研修等を行った。改正法の施行を見据えて、今後も、このような研究会や研修を引き続き実施するほか、改正法の趣旨・内容の理解に資する協議会を設けていく予定である。</p>
<p>十一 本法の下で新たな家族法制が円滑に施行され、子の利益を確保するための措置が適切に講じられ</p>		<p>【法務省において回答】</p>

るよう、関係府省庁等が連携して必要な施策を実施するための体制整備を進める。また、本法の施行に伴い、税制、社会保障制度、社会福祉制度等への影響がある場合には、子に不利益が生じることはないかという観点に留意して、必要に応じ関係府省庁が連携して対応を行うこと。

十二 改正法が国民生活へ多大な影響を与えることに鑑み、本法の施行に先立って、子の利益の確保を図るために必要な運用開始に向けた適切な準備を丁寧に進めること。

- ※ 太枠の中を記入してください。
- ※ 处理状況の欄には、措置済み、一部措置済み、検討中、未着手の中から、調査時点における状況を選択して記入してください。
措置済み、一部措置済みの場合は、措置をした年も記載してください。
- ※ 他府省所管事項の場合は、所管府省を速やかにご連絡ください。